

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	札幌市立中央中学校 第1学年 158名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック選手と直に触れ合う他者との共生の思いをもちながら生涯にわたって運動やスポーツに楽しむ態度の育成を図る。
5 取組内容	<p>○指導計画【1時間扱い】</p> <p>①講師紹介 ②ウォームアップ ③ペア練習 ・アンダーハンドパス ④グループ練習 ・アンダーハンドパスを用いた円陣パス ⑤ミニゲーム ⑥まとめ</p> <p>○取組の様子</p> <p>・<u>ウォーミングアップ</u> 徐々に心拍数を上げていき、体温を上げていく。ボールを使いながら柔軟性を高める運動を取り入れた。日頃とは違ったアプローチのウォーミングアップに意欲的に臨む様子が見られた。</p> <p>・<u>ペア練習</u> バレーボールにおいて使用頻度の高い「アンダーハンドパス」についてのポイントを指導していただいた。腕の形やとらえる位置や姿勢など実際に手本として実施していただいた。</p>



	<p>・グループ練習 学級班でのグループを作り、更にバレーボールの実戦の動きに近付けていく。ボールを真上に上げ、次に触れる人の名前を呼ぶなどバレーボールの実戦の際に必要なコミュニケーションの素地につながる要素が多く組み込まれていた。 チーム内でのコミュニケーションのとり方やボールを持っていない時間にどう準備をしておくかという点に重きを置いてお話をしてくださった。各グループ間を丁寧に見ていただき、詳細なアドバイスを数多くいただくことができた。</p>  <p>・ミニゲーム アンダーハンドパスのペア練習とグループ練習を経て、授業の最後にバドミントンコートでのミニゲームを行った。指導していただいたアンダーハンドパスの形やチーム内でのコミュニケーションの取り方など実戦の中での課題を意識しながらも、ゲームそのものを楽しんで行うことができた。</p> 
6 主な成果	1 時間という短い時間の中ではあったが、バレーボールの土台なる動き方と考え方、そして、何事にも目標を明確にもつことの大切さを伝えてくださった。
7 実践において工夫した点	講師との時間調整と年間の教育課程（指導計画）の関係から、1 時間という短い時間の中での実施であったが、時間割を事前に調整し、学年全員が体験できるよう工夫した。また、ミニゲーム時は対戦表と対戦順を掲示しておき、実戦の時間を確保した。
8 主な課題等	今回は、1 年生生徒を対象として学年全体で 1 時間扱いの授業として実施した。実現が可能であれば、1 クラスずつの実施形態をとることや、1 時間扱いで実施された授業時間数を増やすことができると生徒たちへの教授機会が増え、より効果的な学習機会になるのではないかと感じる。また、複数名の講師に来ていただけると活動内容に更なる深まりが得られるのではないだろうか。
9 今後の取組について	オリンピック選手としての栄光だけでなく、選手として挑戦する過程での考え方や意識の変化、その中で得た学びなどは生徒自身がこれからの生活の中で重宝すべき内容が多く盛り込まれており、バレーボールを含むスポーツへの更なる興味・関心の高まりにつながったと感じる。今後もこのような機会をいただけるのであれば積極的に活用し、生徒たちの更なる高まりを目指していきたい。